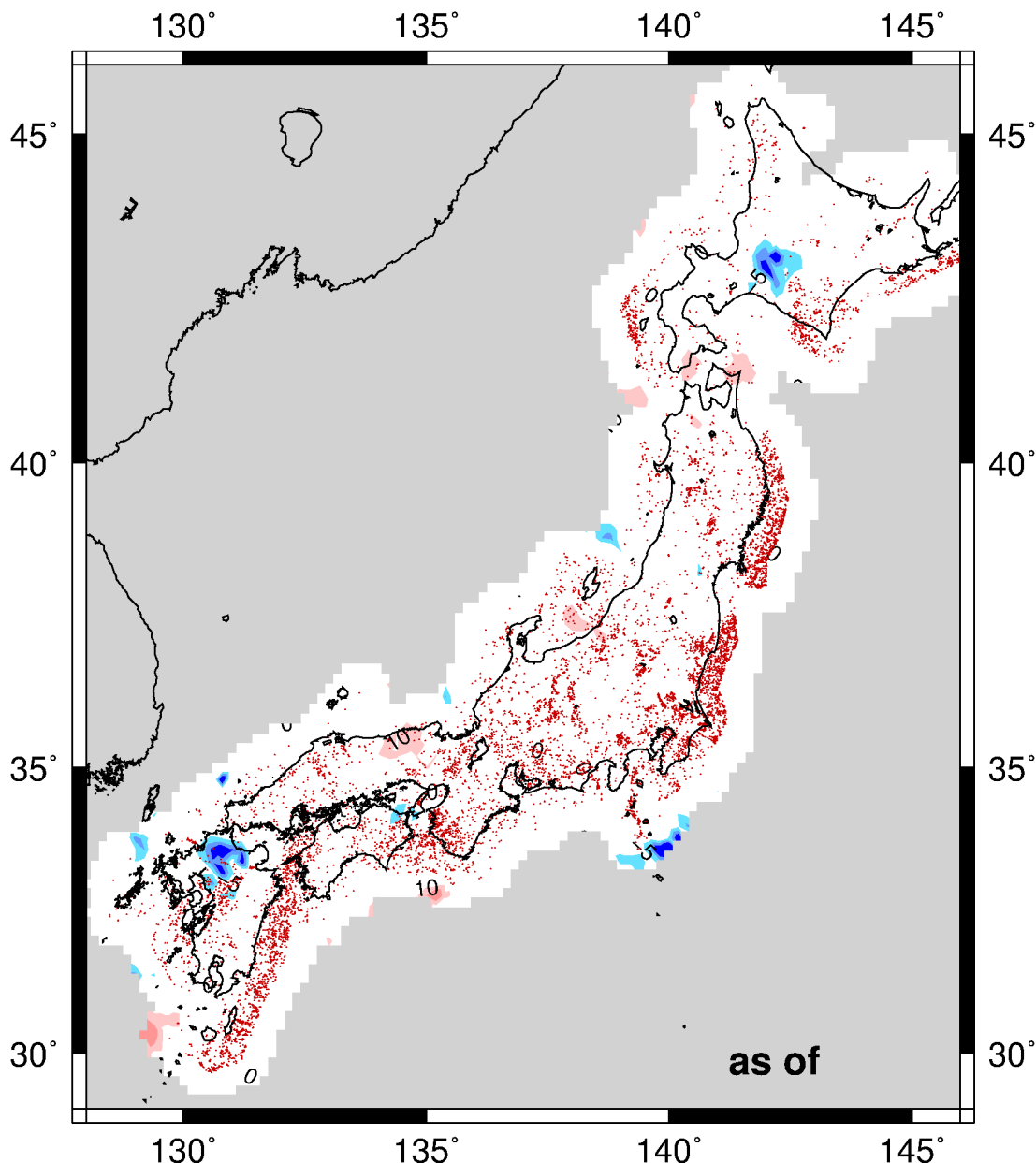


全国の陸域の地下天気図と地下天気図の見方

東日本大震災（3 1 1）は日本列島の地下の状態を激変させてしまいました。そのため、内陸地域の地震発生の様式が従来と大きく変わってしまい、現時点では3 1 1以前と以後で解析を分けたほうが良いのではと考えています。特に東北地方の内陸地域で、それまで地震が多かった所で地震発生数が非常に少なくなったり、従来は地震がほとんどなかった地域で多くの地震が発生するようになりました。

そのため、現在は日本列島の陸域の解析では3 1 1以降の地震データのみを使って、解析を行っています。3 1 1からすでに4年半が経過していますが、地震活動の変化は気象とは異なり、半年単位、年単位でゆっくり変化するものです。従いまして、現在はまだ数ヶ月程度の地震活動のゆらぎを観測している段階で、あくまで参考的なデータとお考えください。

下の図は2015年10月10日時点の地下天気図です。大きな異常（静穏化）は観測されていません。



実は前回のニュースレターで、「日本海に継続的に存在していた青い領域がほとんど消失しているのが大きな特徴です。さらに愛知県から紀伊半島にかけての異常や北陸地方の異常も小さくなっています。」

という文章を「**危機は去った**」と**解釈された方**が多くいらした可能性がある事がわかりました。地下天気図では、青色の部分**が地震活動静穏化**という異常が出現している場所となります。そして一般的には**静穏化が終了してから地震が発生**するのです。つまり前回の情報は安全宣言ではなく、「今後日本海中部は十分注意する必要がある」という意味なのです。また多くの場合、地震は静穏化の中心（つまり青色の部分の中心）ではなく、周辺部で発生する可能性が高いことが経験的に知られています。今回の解析では陸域だけ、それも3.11以降の比較的短期間の地震活動のゆらぎを示しています。

今回の陸域のみに限定した地下天気図では、**異常が消えた紀伊半島周辺**で中規模の地震発生の可能性が高まっているということを意味しています。

今後もウェブをはじめ、できるだけわかり易い解説を心がけて参ります。

